

平成29年11月2日

平成29年度病害虫発生予察特殊報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ウメ斑入果病（仮称）
2. 作物名：ウメ
3. 病原名：ホップ矮化ウイロイド plum 系統（Hop stunt viroid-plum：HSVd-plum）
4. 発生地域：日高郡みなべ町
5. 発生確認の経過

平成29年6月下旬にみなべ町内の露地栽培のウメ「露茜」（スモモとウメの種間交雑に由来する品種）において、斑入症状を呈する果実が認められた。農作物病害虫防除所で RT-PCR 法による遺伝子診断を実施した結果、ホップ矮化ウイロイド plum 系統（HSVd-plum）が検出された。

本ウイロイドによる斑入果病は昭和60年に山梨県のスモモで初めて確認され、これまでに6県でスモモでの発生が報告されている。本県およびウメでの発生は初めてである。

6. 病徴および被害

「露茜」の熟後果実に斑入症状を呈する（写真1）。その他果実品質などへの影響については未確認である。葉や新梢など樹体の症状および樹勢の低下は認められない。

本症状は、ホップ矮化ウイロイド plum 系統（HSVd-plum）によるスモモの病徴と酷似する。スモモでは品種によって斑入果・黄果など異なる症状を示し、熟期は健全果より7～10日ほど遅れ、果肉は締まり、軟化が遅れるとされている。

7. 病原ウイロイドの特徴

本ウイロイドは、主として接ぎ木伝染し、感染樹からの採穂によって広がる。ハサミやノコギリを使った管理作業（剪定等）による汁液伝染の可能性もある。

これまで自然発生が確認されたのはスモモのみとされていたが、今回新たにウメ「露茜」での発生が確認された。なお、本ウイロイドは「露茜」以外のウメにも感染することが感染「露茜」の台木（ウメ）の遺伝子検査により確認されたが、症状は未確認である。

8. 防除対策

- 1) 発病園から穂木を採取しない。
- 2) 健全苗を使用する。
- 3) 発病樹は伐採して健全樹を栽植する。
- 4) ハサミやノコギリを使った管理作業（剪定等）を行う場合は、1樹毎に次亜塩素酸ナトリウム溶液（塩素系漂白剤など）に浸漬し、水洗して用いる。
- 5) ウメとスモモを混植する園地においては、スモモへの伝染に特に注意する。



写真 1. ウメ「露茜」果実の斑入症状

和歌山県農作物病害虫防除所みなべ駐在  
担当：沼口、貴志  
電話：0739(74)3780